心に秘めた想いを引き出す

かつて養蚕の町として栄え、現在は有数の果樹地帯である須坂市は長野県北部に位置する。歴史上重要なターニングポイントであった日米開戦の御前会議に、枢密院議長として居合わせた原嘉道が生まれた地であることを知る者は少ない。

さて、平成二十四年十月、農業高校で学ぶ生徒にとって甲子園に値する日本学校農業クラブ全国大会が長野県で行われる。この大会だが、運動系の大会と同様に種目がある。農業に関する、日頃のプロジェクト研究の成果を発表する『プロジェクト発表の部』、意見を発表する『意見発表の部』、実物鑑定能力を競い合う『農業鑑定の部』、そして平板測量の正確さとスピードを競う『平板測量競技の部』等だ。種目ごとに都道府県やブロック予選を勝ち抜いたものだけが全国大会への出場を許される。

冒頭で紹介した須坂市にある須坂県民運動広場では平板測量競技の部が実施されることになっている。過去に同競技で実績がある長野県須坂園芸高等学校が運営を務める。同校で学ぶ生徒全員が大会の運営を担うわけだが、平板測量競技は他の種目との相違点が多い。屋外と屋内で競技が実施されることから会場が広範囲に及び、一次作業、二次作業、三次作業という具合に、競技総時間が一時間を超える種目は他にない。だから、運営は業務を分担し行わざるを得ない。ざっと数えるだけでも係の数は二桁になる。大きな大会であるだけに運営も大掛かりになるのは当然だ。

取材・記録係
平板測量競技
リハーサル大会における
取材・記録係の活動を追う

走る、止まる、構える、据える。とにかく
動く被写体を捉えるのは至難の業だ

生徒が記者になる日

六月中旬、生徒十七名が校内の一室に集結した。七月四日に行われる、全国大会のリハーサル大会兼県大会の取材・記録を担当する者たちだ。このうち六名についてはすでに外部の講師による三回の研修を経ており、係の主要メンバーとなる。この三回の研修会の概要について触れておく。初回において、取材の方法を学んだ。単なるQ&Aではなく、取材対象からいろいろな想いを引き出す、そのためには相手の言葉に常に同意をする姿勢が必要なことを学んだ。また、取材内容を図示し文章に落とし込んでいく方法を知った。二回目には写真撮影を実践した。人は記事の中で一番先に写真に目を向け、その内容いかんで記事を読むか否かを判断する。だだ、記録として残しておけばよいものではない。更に、記事全体をイメージしながら撮影に挑まなければならないことを知った。最終回において、記事のレイアウト方法について実例を示してもらいながら学んだ。過去二回の研修内容を総動員しながらの研修であった。

話を戻そう。参集した十七名はリハーサル大会兼県大会で記者として運営の一翼を担う。そして記事は大会速報・報告書・機関誌等に掲載され係の成果が形となる予定だ。

リハーサル兼県大会の二日前から準備が進められた。取材・記録係はその様子を取材し記事にすることを準備とした。準備初日さっそく取材にあたるが、通り一遍のことしか聞けず、当然帰ってくる答えもイエスかノーくらいでしかない。相手の答えに同意をすることなどすっかりどこかに置き忘れていた。それなりの枚数と内容を写真に収めたつもりで会場を後にし、学校で記事の作成に取り掛かる。

書けない・・・

取材した内容からは何かのアンケート結果を示すようなことくらいしか記事にできなかった。期待の写真も、そこからは何をしている様子なのか伝わってこないものばかりだった。何とかなるだろうと高をくくっていた私たちに厳しい現実が突き付けられた。

準備二日目、昨日の反省と研修の内容を確認し再び取材にあたった。今度は記事全体の完成図が頭にある。ききとるだけではなく、その場の状況等もメモした。切り取る場面、写真の構図はおのずと変わった。もちろん顧問のH・T先生の技術指導があってのことだが。

リハーサル大会当日。記者たちは、選手に負けないくらい走った。はたして競技に挑む選手のひたむきな姿と心に秘めた想いを記録することができただろうか。

成功への道　Road to Nagano

平板測量競技リハーサル大会　農業高校生の甲子園
農業クラブ全国大会平板測量競技が長野県須坂市にやってくる

平成二十四年十月、農業クラブ全国大会平板測量競技が長野県須坂市にやってきます。大会に向けての準備として去る七月四日リハーサル大会が行われました。大会運営を任された須坂園芸高校生徒の活動、そして選手の活躍をお伝えします。

大会前二日間は準備期間でした。リハーサル大会の会場で、1年生は暑い日差しの中で汗をかきながら、ひたすら草取りの作業していました。作業中の1年生、数人に今の気持ちは?と聞くと、「草を残さず取りたい」「きれいにしたい」「普段見えないところまで、草を取りたい」など、熱意あふれる言葉がかえってきました。草取りの作業の様子を眺めていると、ただ黙々と草を取り続けている人、協力しながらしつこい蔓草に立ち向かっている人、近くの人とおしゃべりしながら手を動かしている人達など、人によって取り組み方は異なっていました。一見、作業の進みに差が出そうに見えますが、それぞれ自分のペースで効率よく草取りをしていました。自分なりに頑張りたい、みんながそう思っているように思えました。

外業の係員は、2年生と3年生で構成されています。ある係員は「なるようになる。外業係として、おもてなしの心を忘れずにやりたい、そして、外業係は選手たちに直接かかわっていく仕事だから、選手たちに迷惑をかけたくない。」と意気込みを語ってくれました。

唯一屋内行われる面積計算作業のことを内業と呼びます。内業係長の本田君に話を聞いてみました。

「今、準備として体育館の整備をしている。進行に関わるので間違わないようにしたい。」と話してくれました。

環境整備　一見のどかだが、炎天下、額に汗し草をむしる生徒たち。華々しい成果や成功は地道な行いの上に成り立っていることを忘れてはならない。

全ては笑顔のために

準備期間二日目は、あいにくの雨となりました。

会場の外側で人目につきにくいところに受付が設けられていました。受付係の嶋倉さんは、「本番に向け係りの関係者を気持ちよく受け入れ、ありがとうと言ってもらえるようにしたい。」と笑顔で話してくれました。

そしてこの記事を書いた取材記録係たちはリハーサル大会の流れを確認するため、カメラを片手に歩き回っていました。一人ひとりがそれぞれの思いを胸に臨みました。講習を受けてから、初めて力を発揮できる場だったため、気持ちに熱が入っていました。それぞれの係の様子や、やっていることが分かるように撮影するのは、思っていたより難しく感じました。わたしたちの係は記事にすることも仕事の一つなので、どういう写真を撮影すればいいかを考えながらやっていきたいと思います。

取材をしていく中で、大会を成功させたいという気持ちが伝わり皆さんの思いが届くような記事を作っていきたいと感じた。

受けての心をつかめるように頑張りました。取材中は、暑さで倒れそうなくらい大変でした。今回、インタビューを受けていただいた生徒の皆さんご協力ありがとうございました。

この日の雰囲気はやはり準備初日とは異なり、大会を目前に控え全係の気持ちが一層引き締まっていたように思います。

十七名の記者

リハーサル大会

天は大会関係者たちに味方した。前日からの雨は上がり、澄んだ空気の中リハーサル大会は幕を開けました。バスで会場に到着した選手は案内係の誘導に従って次々と受付を済ませていきました。準備がしっかりと行われた証拠です。

プラカードと共に、選手が外業会場に緊張した面持ちで、入場してきました。いよいよ、緊張の一次作業、二次作業が始まります。アナウンス係りが、作業の説明をしました。その後、審査員長が競技開始の合図として、黄色い旗を振り、一次作業の開始です。オフセット野帳を審査員から渡されます。コートはAからEまであり、時間に制限がある中、体力と頭を使い、それぞれ作業が進んでいきます。三人で大きく声を掛け合い、測点と測点の間を、コンベックスや測量ピンなどを使って正確に測っていきます。一次作業よりも二次作業数値はミリ単位よりも細かく、速さと正確さが、問われます。

外業となる第一次作業・第二次作業を無事に終え、ひと段落ついたところで選手は少し落ち着いた様子を見せた。次の第三次作業の場となる内業の会場へ、プラカードを持つ人の後を、選手たちは顔を引き締めながら移動した。

テントの中で、内業で使う道具をひとつひとつ確認後、いよいよ三次作業が始まる。全国大会へ行くために、一ミリの油断もせず、ミスを一つとして取りたくない気持ちを持って、選手たちは緊張の面持ちで会場へとむかう。内業の制限時間である十二分間の中で、今までの自分たちの練習の成果を最大限に出し切れるよう、培ってきた努力がすべて報われるように、選手たちは合図とともに解答用紙にペンを走らせた。

笑顔で終了！

全ての競技が終わり、ほっと一息。最後までやりきった！という顔を選手たちが見せてくれました。平板測量競技の道具を片付けながら、仲間とともに一日の頑張りを笑顔で語り合う姿は、見ていて清々しい限りでした。

競技後には、取材記録係が各チームの取材にあたりました。平板側量競技について語るときの選手は皆、熱意のあふれる、元気に満ちていました。競技を終えた安堵感からか、それとも達成感からか、チームごとで集合写真を撮るときの顔には、満面の笑みがこぼれていました。

四回次（この日に同じ工程を四回繰り返した）の第三次作業が終わり、平板測量競技の全日程が終了しました。駆けまわったり、計算したりと、暑い日差しの中での作業は大変でしたが、普段の力を発揮できたでしょうか。選手のみなさん、お疲れ様でした！

十七人の記者

据付　求心・整準を行う生徒。測量精度の高低はこの作業で決まるといっても過言ではない。競技ではスピードも求められる。

大会結果

最優秀賞

長野県更級農業高校C

最優秀賞の長野県更級農業高校Cの選手

優秀賞

長野県富士見高校

長野県下高井農林高校A

長野県下高井農林高校B

長野県須坂園芸高校A

長野県須坂園芸高校B

長野県須坂園芸高校C

最優秀賞にインタビュー

Q　結成時期はいつですか？

一年生のときに結成しました。

Q　結成したきっかけはなんですか？

運動部も文化部も大会などで結果をあまり残していないこと、そして就職に有利だから平板測量を始めました。

Q　どのくらい練習しましたか？

とにかく、くさるほどやりました。

Q　外業と内業はどちらが得意ですか？その理由はなんですか？

外業の全般が得意です。理由は基本セットだからです。

Q　平板測量競技をやっていてよかったことはなんですか？

去年全国大会に出場してよい経験ができたことです。

Q　全国大会の会場の改善点はありますか？

全国大会では平板測量競技を知らない人もたくさん来るので、平板測量についてもっとわかりやすい説明をして、それぞれ係りの要領をよくすればよいと思います。

選手の皆さんお疲れ様でした！全国大会に行く長野県更級農業高校Cの選手はよい成績が残せるように頑張ってください！